チェコ語における純粋主義の生起消滅

十河健二

0.

一定の地域に異なる民族が併存すると，異民族間の婚姻が成立し，帰属民族が変わることがある[1]．そして，異なる言語が一定の地域に長年にわたって併存すると，そこにはそれらの言語の担い手の社会的活動に伴って，多様な接触が生じる．このような現象に対する，言語の担い手の判断は，一様ではない．言語の混交に肯定的な見解が一方にあれば，言語の純粋性を保とうとする動きが，他方でみられる．言語使用者にとって，これらはそれぞれに独自の根拠を持ち，一概に黒白をつける類の問題ではない．

チェコ語とドイツ語との接触は7世紀に遡及する．845年には14人のチェコ人侯爵がレーゲンスブルクで洗礼を受けている[2]．その後，エーゲルラントでは11世紀から，ヴァイツラでは12世紀からドイツ人が居住していた．移住のドイツ人には特権が与えられた．それは移住したドイツ人の活力によって都市が形成され，商業，手工業，鉱業等の発展が期待されたからである．これには20世紀初頭の日本帝国主義が植民地政策として朝鮮半島で行ったような言語強制はみられず[3]，ドイツ人は招かれたのである．ボヘミアの支配者がドイツ人を大量に領邦に招き入れた，いわゆる「ドイツ人の東方植民」である[4]．

このようにしてチェコ語とドイツ語は初め平和的に出会い，言語接触の長い歴史が始まった．チェコ語使用者は，西方から押し寄せるドイツ語の波を時には上手に治め，時には抗い，また時にはその波をもろにかぶったのである.こうした言語環境のなか，民族独自の言語,チェコ語を守り，発展させようという動きがみられるのは，当然のことである．

言語の純粋主義的な運動はチェコ語に限られない．ドイツ語にもあっ

た．1617年アンハルツーケーテン侯爵（L. von Anhalt－Köthen）により「実り豊かな協会」がヴァイマールで設立された．会員にはグリーフィウス（A. Gryphius），ローガウ（F. Logau），オーピツ（M. Opitz），ツェーゼン(Ph. von Zesen)といった文人や，文法学者のショッテリウス（J. G. Schottelius）らがいた．ショッテリウスは『ドイツ語に関する詳細な労作』(1663年)を著している．彼の弟子には『ドイツ語辞典』(1807－1811年)を著した，カンペ（J. H. Campe）がいる．1885年にはリーゲル(H. Riegel)が「全ドイツ国語協会」を設立．外来語をドイツ語に置き換えることで，ドイツの民族意識を高揚しようとした．会員のエンゲル（E. Engel）は「社会の最底辺の，教養の最も少ない層はともかく，ドイツ人は全てドイツ語というには値しない言葉を話す」と，外来語の蔓延に苦言を呈する．エンゲルにとってロマの言葉，イディッシュ，悪党，盗賊の隠語，ペンシルヴェニア語はチンプンカンプンの言葉であった．また，台所で使用されるラテン語，薬剤師のギリシア語，ボーイのフランス語，馬丁の英語，手回しオルガン奏者のイタリア語がドイツ語に定着してしまうと，ドイツ語が消滅する可能性があると危惧した[5]．彼は「外来語は民族統一の敵だ」をスローガンとしていたのである．ドイツでは第一次世界大戦が始まる頃純粋主義運動は頂点をみせたが，その後は徐々に下火になった．

チェコ語ではドイツ語に対する純粋主義の動きが活発であった．そこで本論ではこのチェコ語の純粋主義の動きにできるかぎり迫って，その生起消滅を鳥瞰しようと思う．そのために，1．歴史的に19世紀までのドイツ語の波にさらされるチェコ語の簡略な概観を，主要な人物・事件とともに行い，2．19世紀から今世紀にかけての純粋主義の様子を見ることにしたい[6]．

1．

フス（J. Hus, 1370頃－1415年）を語らずにチェコ語を語ることはできない．フスの時代，チェコ語はドイツ語とかつてなかったほどに対立した．フスは1402年プラハ大学の講師となり，またプラハのベツレヘム礼拝堂の主任司祭であり，説教師を勤めた．その頃，学生時代に感銘を

受けたウィクリフ（J. Wycliffe, 1320頃－1384年）の思想を背景に，富を追い求める教会の姿勢をチェコ語で批判し，聖職売買の弊害を追及した．（アンリ・ボグダン 1993年 66ページ）フスが信奉したウィクリフは宗教改革の思想家で，清貧の理想を掲げ，聖書を信仰のよりどころとする一方で，教会が権威を持ち，世俗化することに反対した宗教家である．

おりからチェコ人が市参事会に選出されることが多くなり，チェコ語が唯一の正当な言語だといわれていた．1380年頃，チェコ語はスラヴ語の中でいち早く書き言葉として，また行政用語として安定を見せたのである．そしてクッテンベルクの勅令（1409年１月18日ヴァーツラフ四世発布）は反ドイツの気運を高めるとともに，チェコ語のこの様な状況を促進させるものだった．（Rádl 1928, S. 54, Vgl. Skála 1977, S. 263)[7] 勅令発布当時プラハ大学の総長であったフスはウィクリフの教えを民衆に説く宗教活動のためローマ教皇の忌避に触れ，1410年プラハ大司教，1411年にはローマ教皇により破門された．1412から1414年まで南ボヘミアのコジー城に隠遁し，説教活動の傍らチェコ語の文字作成などその正書法に尽力し，現在のチェコ語の基礎をつくった．（Vgl. *Lexikon des Mittelalters*, Sp. 231）フスは「チェコ語の言語的清潔さ」を追求して『モーセの十戒注釈』（1412年）で当時の言語使用を厳しく批判している：半分はチェコ語，半分はドイツ語を話すプラハの人々やチェコ人は今こそ鞭打たれてしかるべきだ．というのは連中はこんな風にいうからだ：tobołka（Geldtasche，財布）といわず tobolka, łyko といわず liko (Bast, 袋角)，ubrusec といわず hantuch (Handtuch，タオル)，zástěrku といわず šorc（Schürze，前掛け）など．こうした人々の話は正統なチェコ人には理解できない．それ故，チェコ人は不機嫌になり，憎悪を抱き，動揺し，不名誉を覚えるのだ．(Skála 1964, S. 86ff.)

1414年フスはコンスタンツの公会議に召喚，逮捕され，1415年７月６日，さらにフスに続いて1416年５月３日，彼の最初の弟子で友人のヒエロニムス（Hieronimus von Prag）が共に焚刑に処せられたことがフス派戦争（1419－1436年）の直接の原因となり，国土が著しく荒廃することとなる．

この戦争は教会の改革を求め，カトリック教的及びドイツ的支配に抵

抗して展開し，最終的にはドイツ系住民とチェコ人との対立となった．（アンリ・ボグダン 1993年 68ページ）[8] フス主義側が勝利を得，ジクムント王（Zikmunt，在位1387－1437年）によってチェコ語が国家の唯一の公用語とされた．（同上書 68ページ参照）おりからチェコ語とドイツ語の二言語併用であった都市，例えば，Kuttenberg（Kutná Hora），Deutsch Brod（Německý Brod），Chrudim などは一言語使用となった．その後，チェコ語はポーランド，ハンガリーでさえも外交用の言語となっている．（Skála 1977, S. 268）

17，18世紀は「素朴な純粋主義」の時代といわれる[9]．それではフスの時代の純粋主義的な動きをどう特徴づけるべきか？チェコ語史上，純粋主義的な動きはフスが初めてではない．14世紀前半のいわゆる『ダリミルの年代記』にドイツ人に対する警戒，チェコ語保守の詩行がある：

領邦をおまえらに残そう，　われら一族の財産はすべて台無しになる．
ことばをおまえらに委ねよう，　ドイツ人が領邦と領主を裏切るからだ．
おまえらはことばをたえず増やせ．われらの王位がドイツ人自身のために
ドイツ人を領邦に入れるな．　ドイツへ持っていかれるからだ．
ドイツ語が領邦内にあらわれるなら，（Skála, 1964, S. 75）[10]

時代を遡及するが，『コスマスの年代記』（12世紀前半）に経済的特権を得たドイツ人入植者に対して敵意ある言葉が使用されるという．（Vgl. Skála 1981, S. 391）[11] これらはドイツ人に対する一種の民族反感の表れである．いずれも小規模，散発的なものである．これらに比べて，フスはその当時の言語使用を分析し，批判するので，フスをチェコ語の純粋主義の活動の原点とできる．まして彼の客死がチェコ及びチェコ語の命運を左右したとあれば，なおさらのことである．

フスの時代から約一世紀半後，ボヘミア兄弟団の監督であるブラホスラフ（J. Blahoslav, 1523－1571年）が，「それほど熱烈な純粋主義者ではなかった」とはいわれるものの（Skála 1964, S. 96），フス同様，1571年，当時のチェコ語にみられるドイツ語からの新しい借用語使用を批判している：「自国の言語には独自の素晴らしい言葉があるので，外来語を持ち込むのは好ましくない．しかし慣習がこれに対立することがよく

ある．というのはしばしばドイツ人のなかに混じって，あるいは彼らの近くで生活し，彼らとたびたび言葉を交わすチェコ人はドイツ語の単語を使うのに慣れるからである．このようなチェコ人は次のような言い方をする：Dej sem hantuch.（Gib das Handtuch her. タオルをよこしてくれ.）Mášli hantlík?（Hast du eine Handhacke? 手鍬を持っているかい？）Zač to farkle?（Was kostet das Ferkel? 子豚はいくらかね？）．こうした話し方をするチェコ人はチェコ語，ドイツ語，ラテン語を話すことができるのではなく，以前のソルブ人と同様自分たちの言葉を混乱させ，困惑させ，こうした人々の間に生まれる人々によってのみ，その言葉が理解されるにすぎない.」（Skála 1981, S. 398.）

ブラホスラフは『チェコ語文法』を著し，これはそれまでの最良の文法書と評価される．（Skála 1964, S. 96.）また彼は，宮廷界で使用されるドイツ語からの借用語を確認している：korfyršt（Kurfürst，選帝侯），maršałek（Marschall，元帥），truksas（Truchseß，司厨長）など．（Ibid., S. 97）[12] 彼はチェコ兄弟団を率いて，新約聖書の翻訳の一部を担当し，『クラリツエ聖書』（1579－1593年）の完成に貢献した．これにより，「チェコ語の書き言葉が完成された」といわれる．「『クラリツエ聖書』は，いわゆる『兄弟団の正書法』（bratrský pravopis）を定着させた．これは19世紀までカトリック教徒も尊重した模範であった.」（Ibid., S. 92）このように，チェコ兄弟団はチェコ語の安定に大きく貢献したのである．

この頃にもドイツ人敵対の姿勢がヴィクトリン（Viktorin Kornel ze Všehrdy，1460－1520年）の『ボヘミアの法律，裁判そして告知板について』にみられる：「ドイツ人はあるゆる領邦に，全般的な幸福と利益のためにではなく，常に自身の利益のためにのみやってきた．ドイツ人をあらゆる公職から遠ざけ，財産の剥奪を言い渡し，国外に追放しなければならない.」（Ibid., S. 93）フス派戦争以後，増加の一途をたどるドイツ人に対する，また二言語併用の地域が増加したことへの反感の表れであった．

しかしカトリックを支持するハプスブルク家のボヘミア・ハンガリー統治が1526年に始まり，またドイツ人のルター派がボヘミアに移住するに及んで，ドイツ化が著しくなる．ハプスブルク家は二言語併用を支持

し，統治上の重要な地位にオーストリア人を配した．(Vgl. Skála 1977, S. 270) この頃はボヘミアの領邦の住民の三分の一がドイツ語を話していた．とりわけシュレジアではドイツ語の分布域の中へさながら半島のごとく西方に400kmチェコ語の使用域が突き出ていたという状態であった．(Vgl. Skála 1981, S. 398)

チェコ兄弟団の最後の監督はコメンスキー（J. Á. Komenský, 1592－1670年）である．彼はチェコ人文主義の最大の人物であり，多言語使用者である．彼は「ブラホスラフのようには仕事場の言葉を槍玉に挙げることはなかった.」(Skála, 1977, S. 271)[13] それどころか，彼自身がその著作にドイツ語からの借用語を使用している．彼の他に，モラヴィア州知事のジェロティーン（K. starší von Žerotín, 1564－1636年）とスツラーンスキー（P. Stránský, 1583－1657年）二人を挙げよう．前者はモラヴィアでチェコ語に尽力し，ドイツ人の官吏に反対し，「公共の生活に浸透しはじめたドイツ語に対策を講じた」のである．後者は1618年，ボヘミアのドイツ語化の経過を『チェコ国，不注意なチェコ人への警告』という著作で描出している．スツラーンスキーは「ボヘミアの土地の言葉を減少させ，排除しようとするドイツ人のみと対立した」のである．(Skála 1964, S. 100)

プロテスタント側は三十年戦争（1618－1648年）の局地戦であるビーラーホラの戦闘（1620年）で敗北を喫し，プロテスタント教徒が多数国外に逃れた．コメンスキーもその中にはいっていた[14]．彼は再びチェコの地を踏むことはなかった．チェコはこの戦いの後急速にカトリック化・ドイツ化が進行する．1627年，「改定領邦条例」が発布され，チェコ語とドイツ語とは対等の扱いを受けるべきとされたにもかかわらず，ドイツ語を優遇する事態となっていくのである．(Skála, 1977, S. 271)[15]

チェコ語はフス主義の異端者の言語として禁じられ，ドイツ語がボヘミアの公用語となった．1750年頃，「チェコ語の書き言葉はドン底にあった」といわれる．ビーラーホラの戦闘後，カトリック化とドイツ化は止まることなく，これはチェコ語の使用者を「ボヘミア，モラヴィア，シュレジアの農民，下層の手工業者」に限定するまでに至らしめた．「チェコ語が衰亡する．チェコ人はドイツ人と同化する」という声がドイツ

人貴族や市民階級に日増しに大きくなっていったのである．(Skála 1964, S. 103)

18世紀末のフランス革命の余波はロシア帝国にまで達した．「あらゆる権力は国民から生じる」という百科全書派の理念は，チェコ民族の過去を再調査する時代に，またドブロフスキー（J. Dobrovský，1753－1829年）を代表にチェコ語の復興をはかる時期にもたらされた．18世紀末から1848年までをチェコ史では「民族復興の時代」と称する．この時代，マリア・テレジア（M. Theresia，在位1740－1780年）はチェコ語による教育を命じ，学校でチェコ語の授業が復活した．官吏は民衆とチェコ語で話をしなければならなくなった．また1775年にはウィーン大学に官吏志望者のために，チェコ語とチェコ文学の講座が設けられた．これに先立って，1773年「ボヘミア王立科学学術協会」が設立され，「過去の文献からチェコ民族を見出そうとする努力が続けられるとともに，チェコ語の使用範囲も拡大していた．(梅田良忠　249ページ以降参照) このような状況のなか，ドブロフスキーは1809年チェコ語の初の科学的な文法書『チェコ語文法』をドイツ語で著し，チェコ語の再興に尽力する．(Skála 1964, S. 103)

2．

2－0．19世紀から20世紀冒頭までがチェコ語の本来の意味での純粋主義の時代である．1．チェコ語の純粋主義者がドイツ語風の表現に比較的寛容であった19世紀前半．2．ドイツ語風の表現やさらにチェコ語の表現であってもドイツ語に類似点があるというだけで排除しようとした，19世紀後半．3．プラハ学派が登場し，この学派と少なからぬ論争が展開される，20世紀の純粋主義終章とに分けることができる．終章はプラハ学派の純粋主義克服の時代でもある．以下，おおよそこのような時代区分を念頭に，みてゆきたい．

2－1．19世紀前半はチェコ語の文章用語がドイツ語のそれと比肩できる力をもつに到る時代だった[16]．この頃チェコ語に貢献した人物には，ユングマン（J. Jungmann，1773－1847年），プレスル（J. S. Presl，1791－1849年），弟のボジヴォイ（K. Bořivoj，1794－1852年）達がいる．(Skála,

1977, S. 273）この時代のチェコ人のインテリはチェコ語よりもドイツ語で上手に表現できたのだ．（Vgl. Kamiš 1983, S. 193）

ユングマンはドイツ語を起源とする語を採録し，そのチェコ語の同義語をも併記する．19世紀前半はまだドイツ語風の表現はこの世紀の後半ほどには排除されなかった．彼の辞書『チェコ語ードイツ語大辞典』（1－5巻，1834－1839年プラハ）にそれが表れている．（Kamiš 1983, S. 196）[17] この頃の純粋主義的な傾向を持つ著作にはシフラ（J. M. Sychra）の『ボヘミアの慣用語法論の試み』（1821－1822）がある．彼は16世紀の言語遺産やこの著作の時代の日常語に素材を求めている．（Vgl. Ibid., S. 195）

2－2．1848年は諸民族の春の年であった．ハプスブルク帝国内では封建制度が崩壊し，帝国内の諸国民，諸民族の社会的平等が宣言された．（アンリ・ボグダン160ページ参照）チェコ民族にとってはビーラーホラの戦闘以降続いた暗黒時代の終焉でもあった[18]．

1860年以降，チェコ語はチェコの経済発展と共に力を得，ドイツ語への対抗力を増加させていく．その自立指向とあいまって，ドイツ語風の表現を排除しようという動きが活発になった．しかし，カミシュによると，「ドイツ語風の表現」の定義が不明なままであり，これが純粋主義の言語活動の根本的な弱点であったのだ．純粋主義はドイツ語からの借用語はもちろんドイツ語と語法が偶然にているというだけで，ドイツ語風の表現と見なし，（Vgl. Kamiš 1983, S. 193）ドイツ語からチェコ語へ語彙の面で侵入したものを例外なく攻撃対象とした．「過度に感情的な考え方」だと批評されるゆえんである[19]．

この頃の純粋主義者には，チェコ語はドイツ語の影響を受けて崩壊の危機に直面しているという認識があった．マリー（J. Malý）は「チェコ語が徐々にドイツ語化している」との懸念を持っていた．（Vgl. Kamiš 1983, S. 196 ff.）シャハ（J. B. Šach）の著作『チェコ語の慣用語法』（1862年）はこの頃の純粋主義の一面を表している．シャハ自身が「最も古い時代からコメンスーキーまでの最も優れた著作家から」言語データをとったと述べ，「全く時代遅れとなってしまったチェコ語の慣用表現を復活させることに」腐心したのである．具体例を挙げると：je v

naději（彼女は妊娠している）のかわりに，je s útěžkem または čeká se do kouta という表現を，na vlastní pěst（独力で）のかわりに o své újmě という表現を，má smůlu のかわりに，nemá štěsti, zle se mu vede, vede se mu jako nahému v trní（いずれも「彼は運が悪い」）という表現を使用するように努めた．さらに，dal si kabát šíti（彼は上着を縫ってもらった．）に代え nechal si kabát šíti を，za jedno století または v jednom století（一世紀のたつあいだ）に代え během jednoho století などの表現を主張した．(Vgl. Ibid., 1983, S. 195ff)[20] また，ドイツ語風の表現を書き言葉や日常語から遠ざけるために，ドイツ語からの借用語が多くは直訳借用語に取って代わられた．(Vgl. Skála 1981, S. 400)[21] このために世紀の変わり目の頃のチェコ語の書き言葉は，直訳借用語の多さに特長がある．(Skála, 1977, S. 274) 後日この点が純粋主義攻撃の目標となり，プラハ学派の機能的観察に克服されるのである[22]．

民族復興後の純粋主義はチェコ語の文章用語の根拠をコメンスキーの時代，『クラリツェ聖書』のチェコ語に，すなわち既述の「兄弟団の正書法」に求め，言葉の正しさの基準としたのである．純粋主義の追求する言語様式が「擬古典調」で「歴史的純粋的」と形容されるゆえんである．その純粋主義が，17世紀前後のチェコ語を文章用語の模範とした背景には，国民の英雄であるフスの思想を復活させ，その言語を承継して，反ドイツ語化への姿勢をより明確にしようとする意図があったようである．そして純粋主義者はなによりもビーラーホラの戦闘以後の急速なドイツ化以前のチェコ語を復興させようとしたのである．

このような純粋主義の活動は，しかしマテジウス（V. Mathesius）には，言語の社会的な役割を考えると「不十分」であり，純粋主義が復活をめざす二世紀半以上も前の言語形式は19世紀から20世紀へと変わりゆく時代の社会的要求にもはや応えることができない主張と，映るのである．というのは19世紀後半の純粋主義は「言語の有機的な進展を考慮せず，『クラリツエ聖書』の時代からそれた語法を批判し，時代のいきいきとした日常語に，また書き言葉の文体上の差異にも注意を払わなかった」からである[23]．純粋主義の論客には方言の特質を誇張し，書き言葉の語彙を方言の語法で強化するよう主張したバルトシュ（F. Bartoš），プラ

セク（V. Prasek）らがいた[24].

2－3－0．純粋主義は19世紀の90年代及び20世紀の冒頭で徐々に姿を消した」といわれる．（Vgl. Ibid., S. 201）民族復興時代の到来，そして幾つかの言語令発布が純粋主義にとって，追い風になりこそすれ，向かい風にはならなかったはずだが，チェコ語の純粋主義が「社会の変遷や民族文化の進展を必然的に伴った，コミュニケーション上の必要性を考慮に入れなかった」[25]のであれば，当然の帰結であろう．「チェコ人にとってドイツ語はもっとも自然な国際理解の手段である．プシェミスル朝に始まり，今日まで我々はドイツ語という小窓を通して，世界をみている．」（Rádl 1928, S. 180）これがチェコ史の特性である以上，チェコ語からドイツ語の要素を排除することは，そもそも不可能である．

ボヘミア科学・芸術アカデミーの保護を得て1916年に発刊が開始された *„Naše řeč“* に純粋主義の論客は最後の居所をプラハ学派との論争で得る．とりわけハラー（J. Haller）が編集者の時代，この雑誌は純粋主義の傾向が強く，それはズバティー（J. Zubatý）やエルツル（V. Ertl）によって弱められはしたものの，ゲバウアー（J. Gebauer）の『チェコ語文法』（1914年）を改定したエルツルの惜しまれる早世により，再び純粋主義の傾向を強めていった．（Vgl. Horálek 1982, S. 34)[26] 純粋主義との論争の成果の一つとして『プラハ学派のテーゼ』（1929年）の作成がある．そしてプラハ学派はとりわけ1929年の第一回国際スラヴィスト会議を好機とみて，対純粋主義の論陣を計画的に張った．その結果，こうしたプラハ学派の活動は好評のうちに受け入れられたのである．（Vgl. Ibid., 1982, S. 34)[27]

プラハ学派結成（1926年）前後の純粋主義の言語学的活動には「歴史的純粋性」の一つとして，「直線的規則性」というべき特性があるとマテジウスは指摘する．（Mathesius 1976, S. 92ff.）派生語にみられるその具体例：koupati（入浴する）では koupadlo（浴場）に代え，母音を単母音化して kupadlo の語形を主張する．これにならって：srdéčko（ハート形チョコレート）に代えて srdečko, dráždidlo（刺激薬）に代えて draždidlo, chránítko（カバー）に代えてchranítko, pronásledovatel（追跡者）に代えて pronasledovatel を主張した．また deska（板）－deštička, houska（ゼ

ンメル）－houštička, miska（鉢）－mištička のような造語も主張した[28]．このように純粋主義者には慣例を無視して自身の言語法則を強制する一面があった．

２－３－１．その後の純粋主義

カミシュの「純粋主義は徐々に消滅していった」という見解は紹介した．純粋主義の懸念はそもそもが杞憂だった．チェコ語がどれほどドイツ語の影響を受けようとも，チェコ語の本質にまでそれが及ぶことはなかったのだ．ドイツ語からの外来語がいくら増加しても，チェコ語の文法にまで変化が起こることはなかった．

とはいうもののハウセンブラス（K. Hausenblas）がマルクス主義言語学の視点から，純粋主義を批判し，純粋主義とマルクス主義言語学は相入れないと判断するところをみると，（Hausenblas 1951, S. 44）今世紀中葉でも依然として純粋主義の名残りが散見されていたようだ[29]．彼はスターリン（I. V. Stalin）が『言語学におけるマルクス主義』でいう「ロシア語は他の言語と接触しその言語要素を取り入れて一層たくましくなった」（Vgl. Hausenblas 1951, S. 43）を拠り所に，一言語と他言語との接触はその一言語を混乱させ，貧困に陥れるのではなく，反対に豊かにするのだ，と強調する．

プラハ学派の一員がこのようにスターリンの言説を背景に理論展開を行ったということは，スターリン自身が言語学者ではないと自認する以上[30]，プラハ学派も当時のチェコスロヴァキアの旧ソヴィエト連邦との政治的関係を念頭に置かざるを得なっかた，と思わせる．ここにこの学派の弱点が潜むようではあるが，もっとも，ソヴィエト連邦が崩壊消滅した今日，学問の世界で過去の政治的環境を論じることはなおさら無意味である．

純粋主義であれプラハ学派であれ，その言語的活動は「言語の正しさ」を求める活動である．プラハ学派の言語学の基本姿勢の一つは，「言語の正しさの保護は書き言葉の保護である」という認識である[31]．書き言葉のほうが話し言葉よりも本質的に安定している．言語文化の展開では話し言葉にも一定の役割があるが，書き言葉の役割は文学等の言語芸術の成果を考えれば，決して小さくはない．それゆえに「文学用の言語」

(básnický jazyk) の理論が構成されるのである[32].

他方，純粋主義にとって「言葉の正しさ」とは既述のクラリツエ聖書の書き言葉，つまり「歴史的な正しさ」である．それゆえに純粋主義の言語的活動はプラハ学派からみれば，「書き言葉の本質を，とりわけ現代社会に即して，十分には理解せず」，その言語活動は書き言葉の進展の「協力者ではなくブレーキ」だ，と断言されるのだ．(Hausenblas 1951, S. 42 ff.)

プラハ学派がマルクス主義言語学の側に立ち，対してチェコ語の純粋主義が過去の言語形式に執着し，現在の言語状況に目を向けず，前方ではなく後方に視線を向け，懐古主義である限り，両者にチェコ語進展のための言語的活動以上の共通点を見いだすことはできないのである．

注

1 アンリ・ボグダン『東欧の歴史』高井道夫訳　中央公論社　1993年4月　190ページ参照.

2 Vgl. Skála, Emil : *Diachronische und synchronische Aspekte der deutsch-tschechischen Interferenz*, In : *Zeitschrift für Germanistik, 2.* 1981. S. 390.

3 1911年，朝鮮教育令発布．朝鮮人の日本人化政策の一つとして，朝鮮人に日本語を強制し，天皇制日本の「忠良ナル国民」となることを要求した．(『朝鮮の歴史』朝鮮史研究会編　三省堂　昭和49年　203ページ参照.)

4 Ⅰ．プシェミスル王朝期（9世紀後半－1306年）の12世紀に始まり，12世紀末から13世紀にかけて最盛期を迎えた．ドイツ人は都市，森林地帯や山岳地帯に定住した．(Vgl. Rádl, Emanuel : *Der Kampf zwischen Tschechen und Deutschen*, 1928, Verlag Gebrüder Stiepel, Reichenberg, Böhmen. S. 157) 主な入植地はプラハ旧市街地及びKuttenberg, Budweis, Königgrätzなどのボヘミアの都市である．(Vgl. Skála, Emil : *Die Entwicklung des Bilinguismus in der Tschechoslowakei vom 13. - 18. Jahrhundert.* In : *Beiträge zur Geschichte der deutschen Sprache und Literatur.* Bd. 86, 1964 S. 73) Ⅱ．この頃の言語使用をラートル（Rádl）は「言語の混交使用」と表現している．(Rádl 1928, S. 31) Ⅲ．ボヘミア人（Böhme）とチェコ人（Tscheche）とについて：ドイツ人は „Tscheche“ という表現に馴染んでいた．これはチェコ国内の住民やドイツ語を話す住民をも表した．一方，チェコ人は „Tscheche“ を認めようとせず，„Böhme“ と自ら称していた．ところが第一次世界大戦（1914－

1918年）後„Tscheche“の方が一般的となった．(Vgl. Ibid., S. 171）これには1918年10月28日，プラハの国民会議が独立宣言の際に，Československá Republika「チェコスロヴァキア共和国」の名称を使用したという背景があり，以後„Tscheche“という表現が定着した模様である．本論でも参照資料に従って，「チェコ」及び「ボヘミア」を適宜使い分ける．

5 Vgl. Romaine, Suzanne : *Sprachmischung und Purismus : Sprich mir nicht von Mischmasch*, In : *LiLi*. 16, 1986, H. 62, S. 104.

6 Ⅰ．本論ではドイツ語及びチェコ語の歴史的呼称は使用しない．チェコ語はフスが登場した15世紀を境に，古代チェコ語とチェコ語に分けられる．「14，15世紀は古代チェコ文学の開花期で，宗教面でも，世俗面でも豊かな語彙を有し…」とある．(『言語学大事典』亀井孝他　三省堂　1989年　713ページ）また「1500年までの古代チェコ語…」という表現もみられる．(Skála 1964, S. 87）Ⅱ．14，15世紀の主な歴史的事件：a）1346年，カルル王（Karl），神聖ローマ皇帝即位（カルル四世，チェコ王としてはカレル一世（Karel），1378年まで）．1348年，プラハ大学（カレル大学とも）創設．この頃プラハの人口は3万人以上．ドイツの最も重要な都市，ニュルンベルク，フランクフルトa．M．やケルンよりも遥かに大きかった．しかしアンリ・ボグダン(1993年）で「14世紀のなかごろプラハの人口は35万人以上…」(61ページ）とあるのは誤植と思われる．15世紀初頭には3万から4万人の住民であったという記述もある．(Vgl. *Lexikon des Mittelalters*, Hrsg. Robert Auty, Artemis Verlag, München, 1980 Sp. 342）b）1356年，カルル四世，金印勅書発布．神聖ローマ帝国の言語をラテン語，イタリア語，ドイツ語，チェコ語とするよう指示．チェコ語はすでにボヘミア王国唯一の公用語であった．皇帝自身は四言語使用者であった．(Vgl. Skála, Emil : *Der deutsch-tschechische Biliguismus*, In : *Sprachwandel und Sprachgeschichtsschreibung ; Jahrbuch des Instituts für Deutsche Sprache*, 1977, S. 263）c）1369年，カルル四世，聖書のドイツ語翻訳を禁止する．また，ボヘミアの多くの都市では都市台帳でドイツ語に代えて，チェコ語が使用されるようになった．(Vgl. Skála, Emil : *Das Deutsche im Kontakt mit dem Tschechischen, In : Begegnung mit dem Fremden. Akten des VIII. Internationalen Germanisten-Kongresses*, 3, Tokyo, 1990. Hrg. von Eijiro Iwasaki, S. 99)

7 ラートルによるとクッテンベルクの勅令はこのようなものである：隣人愛は自己愛を前提とする．ボヘミア王国に居住権を持たないドイツ人は大学の議決事項で三種類の議決権を有する．一方，王国の真の相続人であるチェコ人

は一種類の議決権を有するのみである．このことを国王は不当で不公平とみなし，今後は逆にし，国王の住民には三種類，外国人には一種類の議決権を与えるよう，総長と大学とに指示する．(Rádl 1928, S. 66) なおここで言う「ドイツ人」とはバイエルン人，ザクセン人，ポーランド人のことである．(Vgl. *Lexikon des Mittelalters* 1980, Sp. 1594) この勅令の影響はゆゆしく，プラハ大学のドイツ人教師及び学生がライプチヒへ引き上げ，そこでライプチヒ大学を設立する一方，他方プラハ大学はしばらく衰退の途を辿る．1419年神学部廃止，1436年法学部廃止，医学部も消滅．残ったのは文芸学部のみだった．また16世紀から17世紀にかけてケプラー（J. Kepler)，ブラーエ (T. Brahe)，ブルーノ（G. Bruno）らがプラハに滞在したが，衰退期のプラハ大学とはまるで縁がなかった．(Rádl 1928, S. 68ff) その後，イエズス会派の神学校を併合（1654年)，チェコ大学とドイツ大学に分離（1882年，注25，Ⅱ，bをも参照)，チェコ大学のみ「カレル大学」と称する（1920年)．

8 この頃のドイツ人に対する評価は興味深い．ダチツキー（Dačický）という人の数少ない手記例：野菜畑の芋虫，獅子身中の虫，納屋や穀倉の鼠，庭にいる雄山羊に似るのがドイツ人だ．ドイツ人は公然とボヘミアの領邦議会で略奪をし，占領し，詐取し，ペテンを行い，横取りをする．不正直なチェコ人は何人もこのことをドイツ人から覚え，ドイツ人と協力し，助け合い，ドイツ人と結婚し，チェコ人とドイツ人とのどちらともいえない人間となり，屈辱を覚え，堕落するのだ．(Vgl. Rádl 1928, S. 74)

9 Vgl. Kamiš, Adolf : *Die Germanismen im Tschechischen und der tschechische Purismus im 19. Jahrhundert*, In : *Slawisches Spektrum, Festschrift für Maximilian Braun zum 80. Geburtstag*. Hrg. von Reinhard Lauer und Brigitte Schulze, 1983, S. 192.

10 ダリミルの年代記（die tschechische Reimchronik des sogenannten Dalimil）について，『東欧を知る事典』（伊藤孝之　平凡社　1993年　665ページ）では「作者未詳」とのみ記してあるので，参照し得た資料から次のことを明らかにしておく：Dalimilの呼称はアルツブンツラウの司教座教会参事員のDalimil Meziříčskýを誤って筆者だと判断した反宗教改革の歴史学者トマーシュ（Tomáš P. von Čechorod）による，とある．(Skála 1964, S. 74) 当然のことながら，ドイツ語版ではこの詩行は省かれている．(Vgl. Skála 1977, S. 262)

11 Kosmas von Prag：(1045年頃ー1125年）プラハの司教座教会参事会長．初の総合的なボヘミアの年代記 „*Chronica Bohemorum*“ (1125年まで）をラテン語

で著す．伝説上の先史時代も古い出典によって記す．(Vgl. *Brockhaus Enzyklopädie*, S. 696)

12 職人の世界でも次のような語があげられる：štospaňky (Stoßbank，工作台の一種)，werkpaňky (Werkbank，作業台)，ušpámy (Buchsbaum，ツゲ)，など．

13 具体例：1) *„Labyrint světa a lusthauz srdce"* (*„Labyrinth der Welt und Paradies des Herzens"*) 1623年『世界の迷宮と魂の楽園』)，2) *„Kšaft umírající matky jednoty bratrské"* (*„Geschäft. d.i. Vermächtnis der sterbenden Mutter der Brüdergemeinde,"* 1648年『ビジネス，つまりチェコ兄弟団の死に行く母の遺志』) 上例では，labyrint, lusthauz, kšaftが明らかにドイツ語からの借用語である．

14 Ⅰ．ビーラーホラの戦闘の結末：首謀者の貴族はプラハの旧市街広場 (Staroměstské náměstí) で斬首，反乱参加者の多くは国外追放，領地・財産の没収という苛烈さであった．(『東欧を知る事典』412ページ参照．) またチェコ語の書物が何千冊も焚書処分となった．(Skála 1964, S. 91) Ⅱ．ビーラーホラの戦闘ではその後の社会状況を鑑みて，チェコ民族に同情的な見解がある．しかし正鵠を射るのは「ドイツ人に負けたのではない，時代の進歩に負けたのだ」というラートルの見解である．(Rádl 1928, S. 75) またプロテスタントがカトリックに敗北した短期戦でもあった．以後，チェコ人の民族自立運動もしばらく停止する．

15 ドイツ人の増加ぶりを示す具体例：「1520年から1620年の百年間にプラハの旧市街とクラインザイテとに新しく受け入れられたドイツ人の数は4%から52%になった．」(Skála 1964, S. 100) クラインザイテ (Kleinseite) はチェコ名マラースツラナ (Malá Strana)．ヴルタヴァ川左岸の市街地．(『東欧を知る事典』433ページ参照)

16 文章用語 (Literatursprache) の日本語表現については十河健二『プラハ学派の不易流行性』関西大学『独逸文学』第40号 1996年 3 月 100ページ参照．

17 具体例：fald (Falte(折り目))，mord (Mord(殺人))，šmakovati (schmecken (…の味がする)) などがみられる．

18 民族的独立が失われたこの時代をテムノ (Temno) と呼ぶ．(『東欧を知る事典』660ページ参照，十河健二　1996年　99ページをも参照)

19 Vgl. Klaus, Jiří : *Zu soziolinguistischen Aspekten der Sprachkultur in der Tschechoslowakei. In : Grundlagen der Sprachkultur, Teil 2*, 1982. S. 263.

20 それぞれ Sie ist in der Hoffnung, auf eigene Faust, er hat Pech, er hat sich

eine Jacke nähen lassen, im Lauf des Jahrhunderts を容易に連想させる表現である.

21 直訳借用語の例：cestopis (Reisebeschreibung, 紀行文), ostrovtip (Scharfsinn, 鋭い洞察力), polní láhev (Feldflasche, 水筒) など多数, (Vgl., Kamiš 1983, S. 194.) なお, 逆にチェコ語からドイツ語へ入った直訳借用語もあって, 興味深い. 例：Brabenze及びWawrenze (Ameise, 蟻), Wonischen (Hopfenranken, ホップの蔓), Schmetten, Schmettich (Sahne, クリーム), Pifanka (Pfingstrose, シャクヤク), Malina (Himbeere, キイチゴ). これらは言語境界付近に生活する農民の方言に認められる. (Skála： 1981, S. 400)

22 Vgl. Hausenblas, Karel : *O kultuře jazyka a brusičiském purismu*, In : *Naše řeč*, 35, 1951, S. 44.

23 Vgl. Mathesius, Vilém : *Über die Notwendigkeit der Stabilität in der Literatursprache*, In : *Grundlagen der Sprachkultur, Teil 1*, 1976, S. 87.

24 カミシュにより代表的な純粋主義者とその著作が紹介されている：F. O. Mikeš, „*Strážce jazyka českého*", 1872. (『チェコ語の見張り』) J. Javůrek : „*Brus jazyka českého*", 1874. (『チェコ語の純粋主義者』) (Kamiš 1983, S. 197) など.

25 I. Holárek, Karel : *Die Entstehung der funktionalen Sprachwissenschaft und ihr Beitrag zur Thorie der Sprachkultur*, 1982, S. 34. In : *Grundlagen der Sprachkultur Teil 2.* II. この頃の歴史的背景： a) 1880年, ターフェ (E. Taaffe, 1833－1895年) 言語令発布. チェコ語とドイツ語を同等の公用語とした. (矢田俊隆『ハプスブルク帝国史研究』岩波書店 1977年 261ページ参照) b) 1882年, チェコ語で講義されるプラハ新大学設立. (アンリ・ボグダン 1993年 193ページ参照) c) 1897年, バデニ (K. Badeni, 1846－1909年, 1895－1897年オーストリア政府首相) 言語令発布. 1901年以降, 裁判所と行政官庁ではチェコ語とドイツ語の併用が認められた. (Vgl. *Neue Deutsche Biographie*, Hrsg. Karl Otmar, Duncker und Humboldt GmbH., Berlin, S. 511) なお, 1920年2月27日にはチェコスロヴァキア憲法の一部として, 言語法が公布される (施行は1926年2月3日). その基本は国家官庁がチェコ語使用であり, 特別な場合に限ってチェコ語とドイツ語の併用であり, さらに全く特別な場合に限ってドイツ語使用, ということである. (Vgl. Rádl 1928, S.182)

26 プラハ学派はエルツルの早世 (1875－1929年2月12日) を悼む. この事件は「チェコの文化にとって痛い喪失であった」はホラーレクの言葉. (Holárek

1982, S. 34）マテジウスも「エルツルは歴史的純粋主義の要請に，チェコ語学者のなかで最初に抵抗した人だった．自身の見解を最後の結論まで考え尽くすことが，彼に許されなかったのは残念である…」と述べ，これは将来性とその卓越した業績ゆえの無念の言葉である．（Mathesius 1976, S. 95）

27 すなわちマテジウスは『文章用語における安定性の要求について』，ハヴラーネク（Havlánek, Bohslav）は『文章用語の課題と言語文化』について報告を行い，ムカジョフスキー（Mukařovský, Jan）は文章用語と文学用の言語とを対置させた．（Vgl. Scharnhorst, Jürgen/Ising, Erika : *Einführung*, 1976, In : *Grundlagen der Sprachkultur, Teil 1*, S. 13ff.）

28 -sk-の綴りを-ščk-に変えて名詞の縮小形を派生させる手順である．dešťička では destička を，houštička では houska を参照と*Langenscheidts Taschenwörterbuch, Tschechisch-Deutsch*では指示されるので，純粋主義による語形が今日でも使用される可能性はあるようだ．しかし，これらの派生語にマテジウスは「奇異な造語」と言い添える．

29 Vgl. Kuchař, Jaroslav/Stich, Alexander : *Theorie und Praxis der Sprachkultur in der Gegenwart*, 1967, In : *Grundlagen der Sprachkultur, Teil 1*, S. 338.

30 イ．スターリン『マルクス主義と言語学の諸問題』『弁証法的唯物論と史的唯物論』ソヴェト研究者協会　大槻書店　1952年　565ページ．

31 Vgl. Ibid., S. 42.書き言葉に関する論考ではVachek, Josef : *Zum Problem der geschriebenen Sprache*, In : *Grundlagen der Sprachkultur, Teil 1*, 1976, *S.* 229ff. 及び十河健二『プラーク学派の言語文化論と言語のノルムからみた書き言葉と話し言葉について』1992年を参照．なお，この論文でVachekを「ヴァヘク」ではなく「ヴァチェック」と記したのは当時の情報による．読者のご理解を願いたい．

32 例：Mukařovský, Jan : *Über die Dichtersprache*, In : *Grundlagen der Sprachkultur, Teil 1*, S. 162ff.

Blüte und Verfall des tschechischen Sprach-Purismus

Kenji Sogo

Meine letzte Arbeit (*„Fueki-Ryuko" oder „Das für alle Zeit Unwandelbare bei sich wandelnder Form" in der Prager Schule.* 1996), in der ich mich mit der Veränderung der Sprachbetrachtung in der Prager Schule beschäftigt und gleichermaßen auseinandergesetzt habe, ist vorwiegend durch die deduktive Methode charakterisiert.

Als ich vor einiger Zeit die tschechische Sprache autodidaktisch erlernte, war es mir ein inneres Bedürfnis, die Sprache in Böhmen historisch zu überblicken. Inzwischen hatte ich mitbekommen, daß die tschechische Geschichte tief mit dem sprachlichen Purismus verwurzelt ist.

Es war für mich Anlaß genug, diese Abhandlung darüber zu verfassen, in der ich mich sprachlichen Kontakten und Beziehungen zwischen dem Tschechischen und Deutschen und zugleich dem tschechischen Purismus zuwenden möchte. Deshalb ist sie durch die Untersuchungen zum sprachlichen Purismus und seiner historischen Entwicklung charakterisiert.

Sie besteht aus zwei Teilen. Erstens handelt es sich um einen Überblick zur Geschichte Tschechiens und der tschechischen Sprache unter Berücksichtigung verschiedener Auseinandersetzungen mit dem Deutschtum und seiner Sprache. Zum anderen werden von mir in diesem Zusammenhang einige wichtige Ereignisse und das Wirken historischer Persönlichkeiten, insbesondere vom 14. bis zum 19. Jahrhundert, hervorgehoben und näher beschrieben. Hierbei beziehe ich mich auf den sogenannten „primitiven Purismus".

Historisch gesehen begann eine erste Beziehung zwischen beiden

Sprachen bereits im 7. Jahrhundert. Später, im Jahre 845 wurden 14 tschechische Fürsten in Regensburg getauft. Also ist anzunehmen, daß eine künftige sprachliche Entwicklung, daß heißt, die Entwicklungsgeschichte der beiden Sprachen, auch religiöse Hintergründe hat.

In der Folgezeit war das Tschechische in seiner Souveränitätsbestrebung mit weiteren, insbesondere politischen Problemen behaftet. Man erinnere sich an das Kuttenberger Dekret, aus dessen Anläß die Leipziger Universität gegründet wurde, die Herrschaft der Habsburger, die die deutsch-tschechische Zweisprachigkeit unterstützten, die Schlacht auf dem Weißen Berg (Bílá hora) und die Zeit des sogenannten „Temno" (tschechisch) vom 16. bis zur Mitte des 18. Jahrhunderts, wo es um einen deutlichen Germanisierungsprozeß bei gleichzeitiger Unterdrückung, sogar Beseitigung des Tschechischen, ging.

Auf diesem Hintergrund erreichte die tschechische Schriftsprache um 1750 ihren Tiefpunkt. - Welch ein Widerspruch, eingedenk der derzeitigen historischen Leistungen von Persönlichkeiten wie J. Hus, Begründer des Tschechischen, J. Blahoslav, Sprachkritiker im 16. Jahrhunderts, J. Á. Komenský, einer der größten Humanisten seiner Zeit und mehrsprachiger Schriftsteller sowie J. Dobrovský, Sprachpfleger im 18. und 19. Jahrhundert!

Im zweiten Teil meiner Arbeit versuche ich, den tschechischen Purismus vom 19. bis zur Hälfte dieses Jahrhunderts, unter Hinzuziehung verschiedener Materialien und Dokumente, darzustellen. Hierbei handelt es sich um Zitate und Redewendungen aus jener Gruppe, die seinerzeit vom Purismus empfohlen wurde, und um seine wichtigsten Vertreter, wie J. M. Sychra, der den *„Versuch einer böhmischen Phraseologie"* verfaßte, J. B. Šach, der *„Česká fraseologie"* veröffentlichte und versuchte, die völlig veralteten tschechischen Redewendungen zu erneuern, F. Bartoš und V. Prasek, die behaupteten,

daß die Mundart stärker gepflegt und der schriftsprachliche Wortschatz mit Dialektismen angereichert werden sollte, sowie J. Haller, Redakteur der Zeitschrift „*Naše řeč*".

Fazit: Letztlich mußte sich der tschechische Purismus der historischen Entwicklung beugen und auch unterwerfen, bei aller Richtigkeit und Begründung der entsprechenden, aus der Geschichte hervorgegangenen Redewendungen. Das trifft auch für die Neuzeit zu, in der zunächst bis 1989 eine eigenständige Entwicklung der Sprachwissenschaft in Tschechien unter der zentralen Diktatur der Sowjetunion gelitten hat. Deshalb muß es heute Aufgabe und zugleich Ziel sein, das tschechische Geschichtsbewußtsein in Hinblick auf diesen Teil der eigenen Nationalkultur wachzurufen und weiterzuentwickeln.